

十小だより



令和7年度2月号 No. 635

令和8年1月30日発行

武蔵村山市立第十小学校

校長 今井 一馬

【教育目標】

－くすの木のように優しくたくましく－

- ・ やる気いっぱい（自分で考える子）
- ・ 笑顔いっぱい（自分も友達も大切にする子）
- ・ 力いっぱい（丈夫でたくましい子）

【<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced10s/>】



ESD (Education for Sustainable Development)

～ 持続可能な社会の創り手を育む教育 ～

研究主任 高田 博法

今年度、第十小学校では、2002年に「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で日本が提唱した考え方であるESD (Education for Sustainable Development) の理念をもとに、身近な課題や地球規模の課題を自分事として捉え、解決に向けて考えを深めたり行動しようとしたりする児童の育成を目指して、研究を進めてきました。

研究主題は、「武蔵村山市まちづくり学習の充実」。低学年は、「第十小学校周辺の公園や施設、身近な場所で働いている人々」を題材とし、子どもたちが地域のよさや美しさ、働く人々の存在を見付ける学習を行いました。普段何気なく歩いている通学路に、実は珍しい花が咲いていることを知ったり、今まで通ったことのない道を発見したりと、様々な気付きに興奮する子どもたちの姿がありました。また、どんな仕事を行っているのか気になっていたお店の様子を見たり、地域の方と交流したりしたことで、地域に対する愛着心が少しずつ芽生えていきました。

中学年では、「残堀川」を学びのフィールドとし、子どもたち一人ひとりが、残堀川に生息する動植物の様子や残堀川を取り巻く環境問題について捉え、よりよい残堀川にするために自分たちには何ができるのかを検討しながら、考えを深めていけるように学習を進めてきました。4年生は、昨年度から引き続きエコプロダクツ(環境・SDGs・サステナビリティをテーマにした展示会)に参加していることもあり、地球温暖化やプラスチックごみの問題に対して関心が強く、環境保全の側面から残堀川の実態を見つめる姿がありました。3年生は、そのような4年生の姿から刺激を受け、自分たちなりに残堀川の豊かな環境を守るためにできることはないかと、仲間と知恵を出し合いながら熱心に学びに向かっていました。

高学年は、視野を広げ、持続可能な社会・地域づくりを目指し、「むらやま未来づくりプロジェクト」を掲げ、学習活動を行ってきました。六道山公園・里山民家周辺での調査活動やオリジナルカードゲームである「ワールドカード」体験、エコプロダクツ参加などを通して、自分たちの里山の環境を見つめ、身近なところから環境を守る行動を進めていく大切さに気付きました。そこで、自分たちや地域に住む人々には一体何ができるのかを考え、具体的な行動案や効果について検討してきました。また、ESDとの繋がりがあがるSDGsにも着目し、「持続可能性」についても仲間と共に考えてきました。学習のまとめでは、武蔵村山市の未来の里山について、学びの成果を地域の方向けにも提案する予定です。



私たち教職員も、昨年の12月5日、これまでの研究の成果を報告する研究発表会を行いました。市内外から校種問わず、多くの先生方や教育関係者の方が来られました。研究授業の参観を通して、子どもたちの学びの成果や成長を見ていただき、次期学習指導要領に向けた学びのサイクルの確立について我々も考えを深めました。

次はいよいよ子どもたちの発表会です。今年度の学校公開・学習発表 Day2月21日(土)に、全学年、生活科・総合的な学習の時間で学んできたことや考えたことを発表します。子どもたち一人ひとりが友達や多くの仲間と共に準備してきた内容です。大人からすると、疑問に思う点や無理だろう、違うのではと思うこともあるかもしれませんが、子どもたちの自由な発想や考えを一度聞いていただければと思います。発表や最後の考えに行き着いたプロセスも大切です。どうぞ、よろしく願いいたします。

来年度も子どもたちの気付きや考えを大切に、子どもたち自身が自らの学びや行動を選択しながら、力を身に付けていけるよう、教職員一同研鑽に努めていきます。